
自白

僕

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

自白

【Zコード】

Z5577B

【作者名】

偉

【あらすじ】

主人公「私」は失恋し、被害妄想に陥っていた…

(前書き)

久しぶりの投稿なのに、話はかなり暗いです。知り合いの実話を元に書きましたので、文章もめちゃくちゃです…。痛い主人公が嫌な方は読まないことをおすすめします。

正直いって、今の私は最低最悪だ。

2年付き合つた元カレと気持ちのすれ違いが目立ち、気晴らしに他の男の子と遊んだ。会社の同僚何人かでカラオケにいって、そこにいあわせた同期の子がたまたま私の好きな歌を歌う。音楽の趣味が合わない元カレとは違つて、

「俺、結構好きなんだ」

と笑顔でいった彼に、あっけなく心移りしてしまった。そうだった。

元カレも同じ会社の人だつたけど、私の転勤により離れてしまった。その転勤先にいた同期の子は同じ建物にいるため、会わない事の方が少ないから元カレと比べて会う機会が多い。

だから私は呆氣なく元カレと別れることにした。直接会つてだと勇気が出ないから電話で距離をおかないかといつてみた。

きつかけは自分が持ち出したのに、彼から

「別れよ！」

と言われた時はショックだつた。

彼の事は好きだつたし結婚も考えてて、あるときは想像妊娠しそうだつた。なのに彼はあっさりその言葉を言う。私が想像妊娠しそうになつたことを知らない癖にと、自分の事は棚に上げ心の中で責め

た。

以前の私達の仲の良さを知る友達に何で別れたのと聞かれ、「“彼氏いるのに、気になる人がいる”と彼氏をキープしてるみたいで嫌だから別れた。結局倦怠期には勝てなかつたのかな」なんて言い訳みたいな理由をこじつけた。

だけど同期の子とは上手くいかなかつた。元カレから簡単に乗り換えたと思われたのか、私が送ったメールがウザすぎたのか理由はわからない。

会社ですれ違つときでも、彼は私と田を合わせてくれなくなつてしまつた。

そうなると私は淋しい独り身。一ヶ月も経たないうちに寂しくなつて、周りの幸せそうなカップルをうらやましくなつてしまつ。

そんな矢先、会社の後輩の突然の結婚。今流行りの“できちゃつた婚”だ。

「三ヶ月みたいですね」

なんて笑顔でいう後輩。本当ならここで

「おめでとうー！」

の一言でも言ってあげるべきなんだろうけど、ひねくれてしまった

私にはお祝いの言葉をいつどころか彼女を疎ましく思つてしまつ。

高校も一緒だつたこともあり私は彼女がこの会社に来てくれたことが嬉しかつたし、慕つてくれる彼女が可愛くて仕方ない時もあつた。

そんな気持ちも忘れ、独り身であることに過剰な被害妄想に陥り、彼女に冷たく当たつてしまつ。

周りから

「大人っぽいですよね」

とか

「落ち着いてるよね」

とよくいわれるけど、こんなの全然大人じゃない。頭ではわかつていても、妬むのを止めることはできない。

自己嫌悪だとか今更後悔だとか、私の心の中は黒いものでいっぱいだつた。

鏡につづる自分の姿も顔色が悪く、なんだか醜かつた。

そなある日。会社に派遣社員として一つ下の女の子が入つてきた。今時な彼女は明るく、周りとも私ともすぐに打ち解けた。

「もうあの課長、本当に嫌なんんですけど」

パソコンの前に座る私の横に座る彼女。

「あの人ね～。色々噂聞くけど」

「仕事中」ひとつそりする彼女との世間話は好きだった。

女同士、話をしていくうちに恋愛の話になる。彼女は少し危険な恋をしているようだが、話すその目はキラキラとしていた。

「先輩はどうなんですか？」

そう聞かれ、私は意を決して彼女に打ち明けた。元カレとの事、同期の子の事や後輩の事。私は誰かに聞いてもらいたくて、慰めて欲しかった。

「可哀想に…」

といわれ、悲劇のヒロインを演じたかったのだろう。しかし彼女はケロリとした表情で、

「世の中にはもつと不幸な人いますって。そんなのただの被害妄想ですよ」

といふ。

私はなんだか肩の荷が下りた気がした。

そういうわれてみればそうだ。

何でこんなにひねくれてしまったんだろう？元々自分が招いた事ではないか。それを人のせいにして自分は被害者ぶつて。

後輩にも可哀想なことをしてしまった。

私は私が恥ずかしくなつた。出来るなら今までの自分をなかつたことにしたいくらい、自分が嫌で仕方ない。

だけど…彼女にそいつてもらえてよかつた。時間はたくさんかかってしまったけど、自分の愚かさを気付けてよかつた…。

私はやつと前に踏み出せそうな気がした。

何もできずに座り込んでたけどやつと立ち上がり見上げた青い空は、雲一つなく快晴で広くとても澄んでいた。

(後書き)

いかがでしか？彼女は自白する上で自分の非を見つめ、立ち上がり頑張ります。

痛いお話をしたが、読んでいただきありがとうございました！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5577b/>

自白

2010年12月14日19時45分発行